

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒210-0865
 住 所 川崎市川崎区千鳥町13番2号
 氏 名 サンケミカル株式会社
 代表取締役 社長 武田 栄明

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	サンケミカル株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区千鳥町13番2号		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 内容	ウレタン樹脂, 洗剤, 化粧品等の原料製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	3,312	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂

(第2面)

計 画 期 間	2019 年度 ~ 2021 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
 4 ※印の欄は記入しないでください。
 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

工場長は、当工場の環境方針を定め、これを文書化する。この方針は以下のことを確実なものとする。

- 1) 当工場の活動・製品及びサービスの性質・規模・環境影響に対して適切なものであること。
- 2) 継続的改善及び汚染の予防に関する事を約束する。
- 3) 関連する法規制・利害関係者との協定事項及び当工場が認めたその他の要求事項の遵守に関する約束を含める。
- 4) 環境目的・目標を設定し、見直すための枠組みを与える。
- 5) 文書化された方針が実行され、維持されるように、すべての従業員及びOS、構内常駐下請業者等に周知させる。周知の方法は、環境方針を各部署・会議室・食堂等に掲示するとともに、教育を実施する。
- 6) 方針は一般に公開できるようにする。

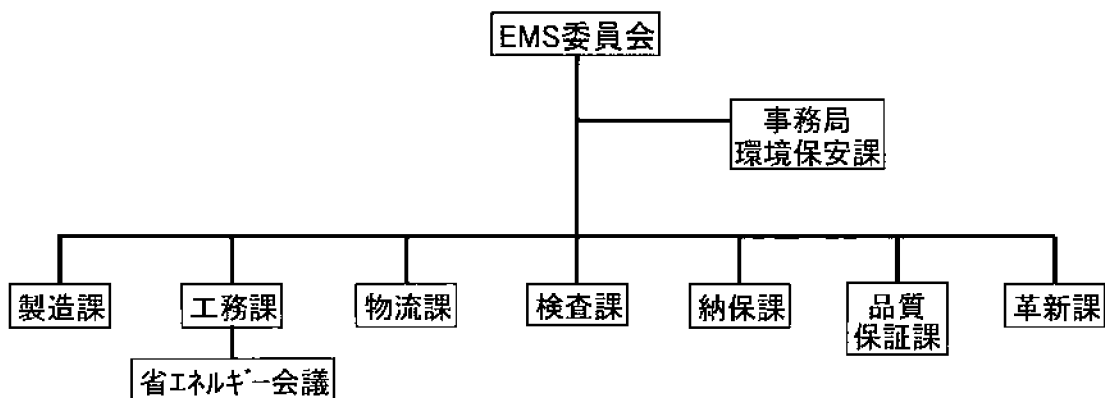
(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDCAサイクル）を行うための方針

工場長は、次のような変化する状況及び情報を反映して定期的に見直し改定を行なう。

- 1) 法規制、その他の要求事項に変更があった場合。
- 2) 内部監査の結果及び／または経営層による見直しの結果。
- 3) その他工場長が必要と判断した場合。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制

目標：令和3年度CO2排出原単位を平成30年度(基準年)の3.0%削減



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（(実)は実排出量を、(調)は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等		
基準	年度	2018				年度
目標	年度	2021				年度
基準	排出量	(実)	5,691	(実)		
		(調)	5,691 t-CO ₂	(調)	t-CO ₂	
目標	排出量	(実)	5,520	(実)		
		(調)	5,520 t-CO ₂	(調)	t-CO ₂	
削減量		(実)	171 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
内訳	対策実施による削減量	(実)	171 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
	上記以外の削減量	(実)	0 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
削減率		(実)	3.0 %	(実)	%	

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
原単位等の活動量		生産数量			
原単位の単位		t-CO ₂ /ト			
基準年度の値		0.07234			
目標年度の値		0.07017			
削減率		3.0 %		%	

ウ 目標設定に関する説明

生産数量当たりの温室効果ガス排出量原単位を年間1%改善を目標とし目標排出量を算定した。
 今後の稼働率は基準年度(平成30年度)の稼働率と同じで推移すると予想されるので、目標排出量は基準年度排出量の3.0%を削減した5,520 t-CO₂と算定した。

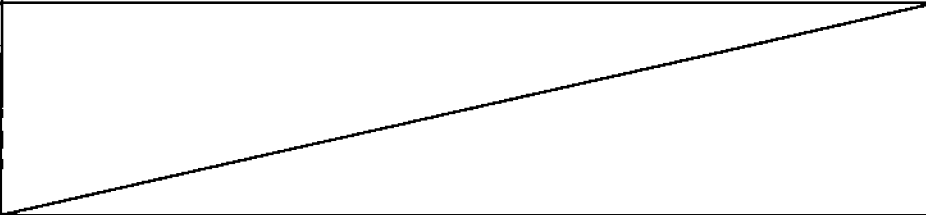
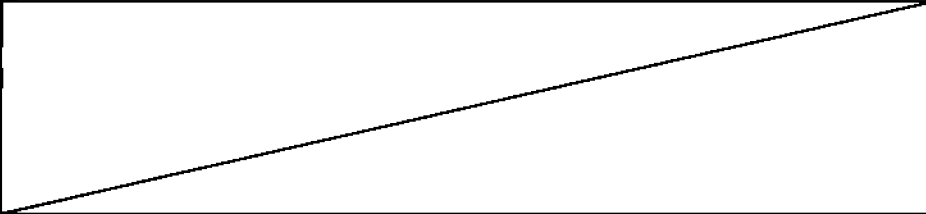
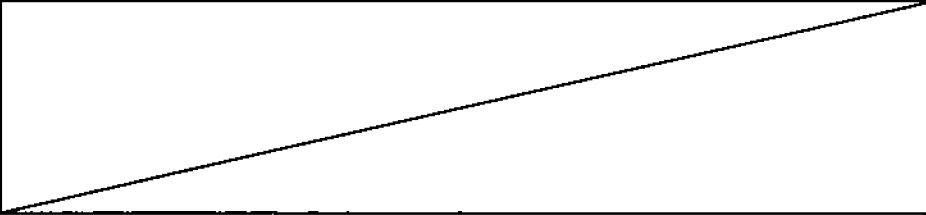
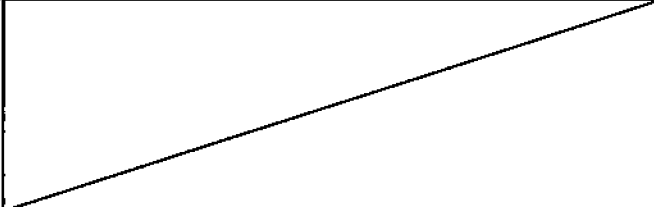
(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

基準年度平成30年度から1%/年の削減とし5,520 t-CO₂/tとした。

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第1から6等を参考に記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>エネルギー負荷の低減、高効率機器の導入、排蒸気の有効活用等の省エネルギー活動を通じて温室効果ガスの排出量削減を行なう。</p> <p>(1)EMS委員会 EMS委員会を通じて温暖化ガス排出削減に取り組んでおり、各部署毎の活動・進捗状況をフォローし推進します。</p> <p>(2)設備の保全管理 保温の破損等の設備保全を確実にを行い、無駄なエネルギー消費を抑制する。</p> <p>(3)エネルギー管理 工場全体や主要設備単位でのエネルギー使用量をチェックし、無駄なエネルギー消費が発生したら直ぐ対応する。</p> <p>(4)老朽化機器更新時の高効率機器採用 ①真空ポンプ ②冷凍機 ③照明等 購入時に高効率機器を採用</p> <p>(5)保温の強化 保温を強化し放熱をなくす。</p>
<p>第1年度</p>	
<p>第2年度</p>	
<p>第3年度</p>	
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

<p>(1)最先端の省エネ技術の採用 ①窓ガラスに遮熱フィルムの貼り付け ②屋根に遮熱塗料の塗布</p> <p>(2)運転条件の見直し ①攪拌回転数の低下②冷凍機・冷却塔設定温度アップ</p> <p>(3)排熱の利用 反応熱を利用し低圧スチームを作成し利用</p>
--

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	○	排熱の利用 反応熱を利用し低圧steamを作成し利用
その他()		
その他()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
無し		

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	△
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他()	
EV、PHV、FCV	×	その他()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	無し
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	次の事を通じて地球温暖化対策の推進を実施します。 (1) 用水使用量の削減 (2) 廃棄物削減 (3) 環境教育 (4) 法令順守
第1年度	
第2年度	
第3年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	5,691	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

3,312	K L
-------	-----

ウ 事業所の数

1

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
サンケミカル株式会社 川崎工場	川崎市川崎区千鳥町13番2号	5,691 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂